別紙１

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲　第　3298　号	氏 名	田中有咲
論文審査担当者	主査　木内祐二　教授 副査　砂川正隆　教授 副査　稲本淳子　教授		

論文題名：自己記入式評価尺度を用いた，自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠如・多動症（ADHD）の臨床症状の相違点と類似点

掲載雑誌名：昭和学士会雑誌　第 82 巻・第 2 号・SUJ-D-21-00080・2022 年 4 月

自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠如・多動症（ADHD）は，病態機序が異なる疾患と考えられてきた．しかし両者の特徴をもつ症例が少なからず存在する．ASD 患者の多くは ADHD 患者と同様の注意障害を示し，ADHD 患者は自閉症症状を呈することも多い．田中らは，自己記入式評価尺度を用いて ASD と ADHD 臨床症状の比較をした．

自己記入式評価尺度として，自閉症スペクトラム指数（AQ）と自己記入式のコナーズ成人 ADHD 評価スケール（CAARS）を用いた．ASD 30 名，ADHD 31 名と精神科通院歴がない定型発達成人 32 名を対象とした．

AQ は，ASD 群で最も高く，定型発達群，ADHD 群に比べて有意に高かった．ADHD 群においても，定型発達群に比べて有意に高かった．CAARS も ADHD 群で最も高く，ASD 群においても定型発達群に比べて有意に高かった．

両疾患は臨床症状が類似することが多く，診断を困難にさせる．さらに双方の疾患特性に関して生活歴や現病歴の聴取、診察時の現症から検討を進める必要がある．

本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。

（主査が記載）